

会 員 の 声

日本のエネルギー政策の一側面

戸 伏 壽 昭*

Hisaaki Tobushi

一昨年と本年、カナダの応用力学会議に出席すると共に、中部平原の都市・ウィニペッグのマニトバ大学に滞在する機会を得た。カナダは、衆知のとおり、その面積が日本の約27倍、人口が約1/5であり、天然資源に恵まれた非常に豊かな国である。

滞在中に特に印象に残った点を挙げ、日本のエネルギー政策に必要な一側面をみる事が出来れば幸いである。

- (1) 国立、州立、市立公園等が非常に美しく、又その保存・管理に力を入れている。このことは、山野のかんりの乱開発を許し、到る処で山肌の露見する日本とは大違いである。
- (2) 北炭夕張のガス爆発事故のことを、カナダの科学技術者は良く知っていた。そして、「カナダでは露天掘りであるので日本での様な事故は起きないであろう」という言葉が続いた。これを聞き、国土が広く天然資源に恵まれた国を非常に羨しく思った。
- (3) 滝に関して、ナイアガラの滝のように平原の中に滝がある。又、川の水量が豊富であり、この為に水力発電が盛んであり、ダムでの水位の差は余り必要としない。これに対し、日本での滝のイメージは、見上げた山合いからの白い糸を引くようなものであり、水力発電には水量が少ない為に水位の差を大きくする必要がある。
- (4) 車に関して、中古のボロボロの車が多く、お世話になったカフーン主任教授の車の一台は、驚く程ボロボロであった。そして、そのボロボロの車で空港まで送迎していただいた。又、乗用車は、勿論大型車が断然多いが、小型車も多く見られた。これに対し、日本ではこのようなボロボロの車はまず見かけられない。

日本の車は皆ピカピカである。

(5) ヤードセールやガレージセールで、各家庭で不要となったものを各家庭の庭や車庫で売り買いしており、物々交換のような習慣を持っている。これは資源の有効利用である。天然資源の豊富な国でこのようなことが行われているのに対し、日本では使えるものでも捨てるような贅沢な生活が行われている。

(6) カナダでは英語と仏語の2ヶ国語が公用語であるが、主たる使用言語が州によって異なる為に、英語圏に住んでいる人は仏語会話が、仏語圏の人は英語会話が難しい。即ち、義務教育では両方を学ぶが、普段使わないので忘れてしまい、上手に話せないとのことである。又、向こうの人達の会話の輪の中で、ジョークを理解し、その笑いの“落”を把握して笑いの渦に解け込むことの難しさを痛感するにつけ、言語のみならず歴史・文化・宗教等の違う我々が、日本に住んで居ながら外国語会話をマスターするには、相当の努力が必要であると思った。このことから、次の点が考えられる。

(7) 天然資源が乏しく人口の多い日本は、貿易を通じてしか生きて行けない。明治以来、日本の大学や産業界等全ての社会活動において、欧米先進国に追付け追越せの合言葉で技術の導入・模倣・改良が行われて来た。そして現在では、あらゆる分野で日本は先進工業国の頂点に位置して来た。その見返りとして経済摩擦を引き起こしている。これを緩和して、諸外国と友好関係を保ちながら我国の発展を行う為には、諸外国との調和・協調が必要である。これを行う為には、実際に海外に出て、外国人との交流を行い、彼等を理解すると共に、日本を理解してもらうより方法はない。これは容易なことではない。国を挙げての取組みが急務である。

* 愛知工業大学機械工学科助教授

〒470-03 豊田市八草町八千草1247